

第20回日本マレーシア学会研究大会のご案内

大会準備委員 福島康博

先般メーリングリストにてご案内いたしましたとおり、第20回日本マレーシア学会（JAMS）研究大会が12月10日（土）、11日（日）の2日間にわたり、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（AA研）にて開催されます。なお、今回のJAMS研究大会の開催につきましては、床呂郁哉 AA研所員のご協力をいただき、AA研コタキナバル・リエゾンオフィス（オフィス長：床呂郁哉）との共催というかたちで開催いたします。

本大会は、1992年に日本マレーシア研究会として発足以来20回目となる記念すべき研究大会になることを受け、これにふさわしいプログラムをご用意いたしました。まず初日には、例年よりも多い5本の個別報告を予定しております。もちろん本数ばかりではなく、自然環境保全、MM2HPとメディカル・ツーリズム、イスラーム運動、選挙分析、経済政策、といった現代マレーシアの多様な側面を扱う報告となっております。

続く2日目は、「JAMS 結成20周年記念企画」と銘打ちまして、シンポジウム「ヤスミン・アフマドにみる映画とマレーシア：グローバル的混成社会における大衆文化」を開催いたします。2009年7月に急逝したマレーシアの映画監督ヤスミン・アフマドをめぐっては、2010年3月のPSSM（マレーシア社会科学協会）によるMSC7において『タレントタイム』の上映会が実施され、マレーシア研究者の間において議論がなされる一方、日本においても数々の映画祭において彼女の作品群が上映され、好評を博していることはつとに知られているとおりです。こうした状況の中、JAMSとして、彼女の作品群を正面から取り上げるシンポジウムを企画いたしました。マレーシア研究者はもとより、映画研究者にもご登壇いただき、多角的な議論が行われる予定であります。なお、同シンポジウムは、JAMSとマレーシア映画文化研究会（JAMS 連携研究会）による主催、AA研コタキナバル・リエゾンオフィスと京都大学地域研究統合情報センター共同研究「大衆文化のグローバル化に見る包摂と排除の諸相—マレーシア映画を事例として」（代表：篠崎香織）による共催、という形式で開催いたします。

また、初日の夜には大学会館にて懇親会を開催いたします。旧交を温める場、新たなネットワークを構築する場、意見交換を行う場などとしてご活用下さい。参加費は1,500円です。

研究大会への参加お申し込みは、別途メーリングリストにてお送りします参加票で、所定の方法にしたがって行って下さい。詳細は同メールにてご連絡いたします。

師走のご多忙な折とは存じますが、第20回の記念となる研究大会にご参加下さいますようお願い申し上げます。